

生分解性マルチの効果確認(薄肉化)



7/14 慣行



7/14 試験品



7/14 左試験、右慣行



10/14 慣行



10/14 試験分解



10/14 試験分解

試験目的	生分解性マルチの効果確認(薄肉化)					
試験作物及び品種	南瓜(黄王)					
試験資材及び数量(規格)	カエルーチ(0.016mm×95cm×400m 透明無孔) 2本					
慣行資材	サンブラックマルチ(0.018mm×95cm×400m 乳白無孔)					
栽培方法	<table border="1"> <tr> <td>播種日</td> <td>6月10日</td> </tr> <tr> <td>収穫日</td> <td>10月20日</td> </tr> </table> <p>【栽植密度】 畝幅：400cm 株間：70cm</p>	播種日	6月10日	収穫日	10月20日	
播種日	6月10日					
収穫日	10月20日					
資材使用期間	5月10日～10月30日	試験区面積 760㎡				

試験結果

- (1)作業性について(慣行品との比較)**
 展張時に裂けたりしなかったため、作業に支障はなかった。特に慣行品との差は感じられなかった。
- (2)作物の生育状況または、収穫への影響**
 初期生育が慣行品と比べて遅かった。ただし生育が極端に悪いわけでもなかったため、南瓜のツルがマルチからはみ出す頃には生育が慣行区に追いついた。結果収量は慣行品と差が感じられなかった。
 南瓜の歩留まりが極端に良いことも悪いこともなかった。
- (3)栽培管理上の優位点あるいは問題点について**
【優位点】：生分解性マルチなので、土に鋤きこめば分解すること。慣行品は土に鋤きこんでも分解しない。
【問題点】：慣行品と比べて初期生育が1ヵ月ほど遅れていたこと。
- (4)資材の強度・耐久性・崩壊性について**
 強度、耐久性に差は感じられなかったが、崩壊性は来春にならないとはっきりしたことは言えない。
- (5)促成・抑制効果について**
 乳白と透明の違いはあったが、差は感じられなかった。
- (6)保温効果について**
 薄くしたことにより保温効果が小さく初期生育があまり良くなかったのではないかと考えた。保温効果がもう少しあると良い。
- (7)雑草・病害虫の発生について**
 マルチを張ることにより雑草を少なからず抑えることができるが、慣行品との差は感じられない。
 当地区は風が強いのでどちらのマルチも土を盛ってマルチが飛ばないように押さえておく必要がある。

モニター感想

作物にもよるが、南瓜は初期生育が重要と考える。よって、今回の試験で初期生育があまり良くなかったため、改良してほしい。生分解性マルチは高価であるが面積が大きいため機械で鋤きこむ楽さがメリットとなり、使用したい。
 作物の単価が上がってくれば生分解性マルチの普及はより見込まれると感じる。

JA担当者の感想(佐藤氏)

初期生育の差は厚さによるものと推測されるが、収量が変わらなかったため問題はないと考えられる。
 0.016だけでなく、同じ厚さの試験品も用意して比較してみるとまた違う結果になったのではと思う。

今後の使用について

改良して欲しい。
 初期生育を良くするため保温効果をあげてほしい。

将来希望する資材について

崩壊性が高いマルチ。作物によって崩壊性が異なるマルチを供給すると良いと感じる。(南瓜用マルチは崩壊が早いなど)

- 1 クリント
- 2 高温対策
- 3 害虫忌避効果
- 4 生分解性マルチ
- 5 育苗資材
- 6 酪農資材
- 7 その他